

Arcanobacterium pyogenes、通常アクチやアルカノと呼んでいる乳房炎、それほど発生頻度は多くありませんが、発熱などの全身症状を伴う重症なものでは、治りが悪く、結局盲乳にせざるをえない…ということも多いと思います。

ある調査では、A.pyogenes の乳房炎牛 70 頭のうち、治癒したものは 24.6%で、盲乳 32.8%、淘汰 36.1%、死亡 4.9%という報告もあり、アクチはなかなかたちの悪い菌なのです。

でも、乳汁検査結果ではほとんどの抗生物質に感受性があるのに…と思った方、いらっしやいませんか？

アクチはハエによる伝搬や、血中エストロゲン濃度の上昇が発生に関与するという報告もありますが、もともと健康な牛の乳房や泌尿器、上部気道の粘膜などに常在している細菌で、ストレスをうけたとき、免疫が低下したときなどに発症します。

そのため、エストロゲン濃度が増加する分娩前、そして分娩や周産期疾病のストレスにより、分娩後 10 日以内に発症するリスクが高いようです。

では、なぜ治らないのか…

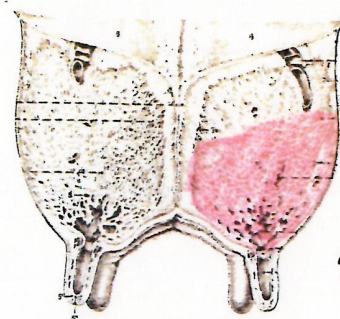
重度のアクチの乳房炎では、

乳管洞粘膜および乳腺実質の化膿性融解と

乳腺間質の繊維性増生がおきているという報告があります。

こうなってしまうと泌乳の再開はなかなか望めないため、

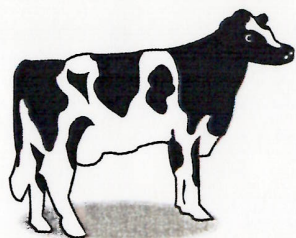
そうなる前にしっかり治療することが重要になりそうです。



《乳房の模式図》

発熱を伴わない軽症なものであれば、乳房炎軟膏のみの治療でも治癒する可能性があります。ほかの病気を併発している場合や、発熱がある、乳房が硬結、腫脹している、ドロドロの乳汁等の症状がある重度の場合は、乳房が上記のような状態になってしまっている可能性があり、軟膏治療のみでは抗生物質が乳房全体まで届かず、治りません。このような場合は、抗生物質や消炎剤の全身投与が必要です。

さらには、乳房洗浄をおこなうこと、ブツがつまって乳汁が排出できない場合は乳頭をカットすることで、一般症状が改善するという報告もあります。



いずれにしても、**早期発見・早期治療が重要です！**

アクチの乳房炎で、発熱がある、乳房が硬い、腫れている等の重症の牛がでたら、治りにくくなる前に！

獣医師にご相談ください。

松下裕香